

発表形式: 一般演題 (口演)

発表形式一般演題 (G-1~G36): 20.病院前救護・MC

演者の姓: 谷崎

演者の名: 義生

演者の姓 (ふりがな): たにざき

演者の名 (ふりがな): よしお

演者の会員番号: 5989-D3917

1.演者の所属機関名: 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 救急部・脳神経外科

演者の職種: 01.医師

演者の所属機関番号: 1

演者の所属先住所の郵便番号: 372-0006

演者の所属先住所県: 群馬県

演者の所属先住所: 伊勢崎市太田町 366

演者の所属先の電話番号: 0270-24-3355

演者の所属先の内線番号:

演者の所属先のFAX番号:

演者の電子メールアドレス: jugemu@plum.plala.or.jp

演者の電子メールアドレス (確認用): jugemu@plum.plala.or.jp

演者の連絡先住所の郵便番号:

演者の連絡先住所県:

演者の連絡先住所:

演者の連絡先の電話番号:

演者の連絡先の内線番号:

演者の連絡先のFAX番号:

2.所属機関名: 前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科

3.所属機関名: 伊勢崎市民病院 救急センター・脳神経外科

共同演者 2 の姓: 中村

共同演者 2 の名: 光伸

共同演者 2 の姓 (ふりがな): なかむら

共同演者 2 の名 (ふりがな): みつのぶ

共同演者 2 の会員番号: 99

共同演者 2 の所属機関番号: 2

共同演者 3 の姓: 中島

共同演者 3 の名: 重良

共同演者 3 の姓 (ふりがな): なかじま

共同演者 3 の名 (ふりがな): しげよし

共同演者 3 の会員番号: 99

共同演者 3 の所属機関番号: 3

演題名:

脳卒中救急医療体制整備にはメディカルコントロール協議会の活性化が不可欠:第 2 報

抄録用図表の有無: なし

抄録本文:

【背景と目的】我々は、本学会で群馬県の脳卒中救急医療体制整備の一環として、人材養成と脳卒中搬送患者事後検証の重要性について報告してきた。今回は t-PA 常時施行可能 13 病院で事後検証を行ったので報告する。【方法】1.人材養成：医療情勢の異なる 11 地域 MC 主催の PSLS コース開催、全県対象の ISLS コース開催。2.脳卒中救急搬送患者の事後検証。【結果】1.PSLS は 71 回開催、受講者は 1920 名、ISLS は 25 回開催、725 名が受講。2. t-PA 実施件数は 2014 年 234 例で、227 例を上記 13 病院で実施。3.事後検証は昨年 11 月 13 病院の協力で実施、脳卒中判断・発症時間記載率は、それぞれ 59%・58%、内因性 L&G 正答率は 52%であった。【結論】1. 脳卒中受け入れ病院を明確にし、t-PA 適応患者の集中が可能になった。2. t-PA 常時施行可能 13 病院で脳卒中救急搬送症例の事後検証を行い、その作業を通して地域拠点病院医師の病院前救護の必要性理解が前進した。3.記載率は不良で、確定病名の共有・実施基準の効果検証など行政と協働した MC 活動活性化の必要性が不可欠である。